

給食だより



令和3年
1月号

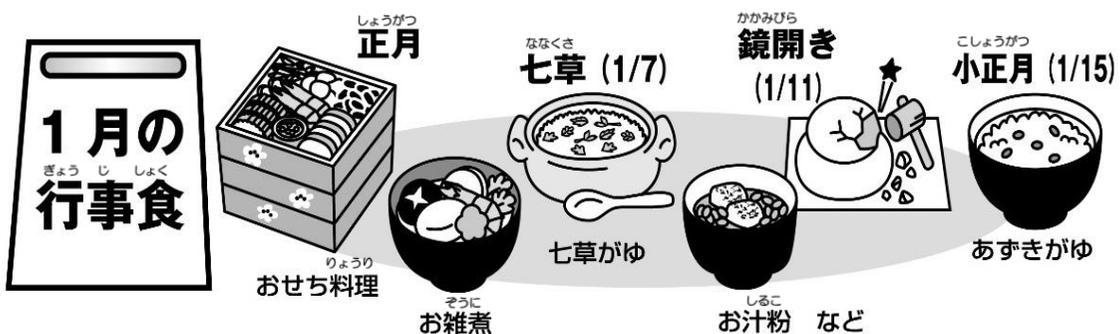
令和2年12月24日

門前共同調理場

冬休みが終わると、新しい年が始まります。今の学年で過ごすのも残りわずか…

「1月は行く、2月は逃げる、3月は去る」というように、この3か月間はいつも以上に時間が過ぎるのを早く感じる時期です。食事をしっかりとって、健康第一に過ごしてほしいと思います。

さて、1月には、これから始まる1年を無事に過ごせるようにと願いを込めた、行事食がたくさんあります。日本や地域、家庭に伝わる食文化を大切に受け継いでいきたいですね。



1月7日 邪気を祓う七草がゆ



1月11日 無病息災を願う鏡開き



お供え物に刃をかけてはいけないという習わしから、手や木づちなどで割ります。また、「割る」は縁起の悪い言葉なので、縁起の良い「開く」という言葉を使います。

1月15日 悪鬼と疫病を祓うあずきがゆ



小正月に一年の邪気を除くものとして、食べる風習があります。小豆の赤には神秘的な力があり、疫病よけのまじないとなっていたのです。今日でも祝い事があると、赤飯を炊きますが、これも同じ風習から生まれたといえます。

1月は「睦月」ともいいます。親戚や知人が互いに行き交って「仲睦まじく」する月から名付けられたそうです。1年の最初の月であり、その年を健康に過ごすための願いが込められたいろいろな行事が行われます。



学校給食は、明治22年に山形県の鶴岡市の私立忠愛小学校で貧困児童を対象に行われたのがはじまりです。毎日おいしい給食を食べられることに感謝しましょう。

食べ物の命をいただいています！

わたしたちが食べている食べ物は、どれも生き物の命をいただいているものばかりです。また、生産者や料理をつくってくれた人たちなど、さまざまな人びとの手を経ることで、毎日の食卓に並んでいます。食事をする時には、感謝の気持ちを忘れないようにしましょう。そして、苦味のある食べ物がある場合には一口でも挑戦して、できるだけ食べるように努力をしてみましょう。



学校給食の7つの目標



学校給食は、教育の一環として行われ、7つの目標があります。

健康な体づくり



望ましい食生活のお手本に



助け合い、協力して楽しく食べる



自然の恵みに感謝する



働く人たちに感謝して食べる



地域の食を知り、未来に伝える



食を通して社会のしくみを知る

